連続カードの教え方（松井さん連続カード解説）

連続カードは一つの（あるいは一連の）出来事を時系列に沿って数枚の絵ないし写真カードで表したもので、知能検査などで、絵の内容からその時間的な前後関係を判断する推論能力を確かめるために用いられています。

ABAセラピーで連続カードを使うにはいくつかの方法があります。

（１）時間の前後関係を判断させる

これが本来の使い方です。時間的な前後関係がある二枚以上の絵ないし写真を見比べて、どちらが先で、どちらがあとなのかを判断する力を養います。

ただ、最初に注意しておきたいのは、この課題が知能検査に用いられているからと言って、この課題をクリアすることが知能全体を上昇することにつながるわけではない、ということです。時間的な前後の判断能力は、広範多岐に及ぶ知的能力のほんの一部にすぎません。それがたまたま知能検査の課題の一つに選ばれているに過ぎないのです。

ですからこの課題の意義を過大評価しないようにして下さい。この課題が習得できたからと言って、お子さんの知能全体が上昇するわけではないし、逆にできないからと言ってそんなに落ち込む必要はありません。私たちでも、文章理解は得意だけれど、地図の理解は極端に苦手だったり、と知的能力のアンバランスは大なり小なり持っていますよね。それと同じです。

それでも知能検査に取り上げられている以上気になるという人、一種の知的トレーニングとして挑戦させたい、という人はこの課題に取り組んでみて下さい（もともとそのためにこの教材を制作したのですし）。しかしこの課題はとても難しくて、ともすれば子どもを苦しめるだけに終わりがちなので、それほどの意義を感じない人は、（１）を飛ばして、（２）の「その他の使い方」を選ぶことをお勧めします。

この課題は上級課題です。この課題を教える前提として、「はじめ、次、最後」「一番、二番、三番」「先、あと」などの順序の概念、それに時制の語尾変化（する、してる、した）を理解している必要があります。年齢としては４，５才以上です。

比較的高機能で、教えなくてもわかっていそうなお子さんでしたら、いきなり本番に入ってみましょう。例えば「松井さん連続カード」の中にある「横断歩道を渡る」の四枚のカードをバラバラな順番に並べて、「どれが一番最初かな。順番に並べてごらん」と指示を出してみます。お子さんが正解したら、他の連続カードも同様に試してみます。

しかし大半のお子さんは、いきなりノーヒントではわからないでしょう。その場合はわかりやすそうなカードを選んで、スモールステップで教えます。目標は新しい連続カードを見せられた時、その時間的な前後を判断して正しい順番に並び替えることができることです。

時制連続カード

例えば「１パンを食べる」から「７カーテンを開ける」までの三枚組の連続カードは「時制連続カード」と言って、1枚ずつが「〇〇する」（動作をする前）、「〇〇してる」（動作の最中）、「〇〇した」（動作の終わり）を表しています。比較的わかりやすく、言葉で表すことが手掛かりになりますので、これを使ってみましょう。

「パンを食べる」

まず「パンを食べる」の三枚のカードを子どもにとって左から順に（あるいは上から順に）正しい順番で並べます。そしてあなたが最初のカードから順番に指さしながら「パン（を）食べる」、「食べてる」、「食べた」（あるいは「食べちゃった」）と言います。子どもにもその順番に指さしながら言わせます。あるいはもっとわかりやすく、「いただきます」「パクパク」「ごちそうさま」と言ってもいいでしょう。時制表現にこだわる必要はありません。

次に子どもの見ている前でカードの順番をバラバラに並び替えます。そして「はじめは、何だっけ？」と聞きます。わからなければ「パン食べる、は？」（あるいは「いただきますは？」）とヒントを出します。選べたら、「次は？」（「食べてる、は？」）、「最後は？」（「食べちゃった、は？」）と言って、正しい順番に並び替えさせます。

この、バラバラにして正しい順番に並ばせる、という練習を、「パンを食べる」のカードで、プロンプトがいらなくなるまで、何度か繰り返します。

「ラーメンを食べる」

次は「ラーメンを食べる」のカードを出します。これは「パンを食べる」に似ていますから、まずばらばらに並べて、正しい順に並び替えることができるかどうか、試してみましょう。できれば、応用力が身についた、ということになります。

できなかったら（あるいはできそうになかったら）、これも一から教えましょう。「パンを食べる」と同じように、正しい順番に並べておいて、一枚ずつ指さしながら、「ラーメン食べる」、「食べてる」、「食べた」（あるいは「いただきます」「もぐもぐ」「ごちそうさ

ま」）と言っていきます。子どもにそれをまねさせてから、カードを並び替えて、もう一度正しい順番に並び替えさせます。

できれば、ここでご家庭でも似たような「食べる」「食べてる」「食べた」の写真カードを、ご家族をモデルにして何種類か作り、いったんばらばらにしてから、正しい順番に戻す練習を続けましょう。そろそろかな、と思ったら、テストとしてまだ練習していない新しい一組のカードをいきなりばらばらな順番で並べ、「順番に並べて。はじめは？」と言って、正しい順番に並べられるかどうか、確かめてみます。しかしそれができてもできなくても、次に進んで下さい。

「食べる」の困難さ

この時制連続カードは比較的簡単、と言いましたが、それでも多くのお子さんが、特に「食べる」（食べる前）の理解に困難を示します。まだ手つかずの食べ物や飲み物を前に、人がただすわっているだけの写真が、どうして食べている写真の前なのか、がわからないのです。それに比べて、「食べてる」と「食べた」の違いは比較的わかりやすいです。ですからお子さんが「食べる」の理解に困難を示したら、とりあえず「食べてる」と「食べた」の二枚に絞って練習して、新しいカードでも正しく並び替えることができるようにさせるといいでしょう。

またご家庭で類似の写真カードを作るとき、食べる前の写真について、モデルに「いただきます」と手を合わせているポーズをしてもらうとわかりやすいと思います。食べ終わった時も「ごちそうさま」で手を合わせます。この場合、ことばの説明は「いただきます」「もぐもぐ」「ごちそうさま」です。

その他の時制連続カード

「食べる」連続カードで一通り練習したら、そのほかの時制連続カードでも同じ手順で練習し、般化を図ります。ここでも類似のカードが数種類ずつある方が習得しやすいので、できればご家庭で家族をモデルに似たような連続カードを何組かずつ作っておきましょう。

例えば次は「お茶を飲む」です。これは「食べる」ととても似ていますね。できれば「ジュースを飲む」とか「牛乳を飲む」カードも作っておきます。そのうちの二組、例えば「お茶を飲む」と「ジュースを飲む」は最初に正しい並び方を教えておき、「（お茶を）飲む」「飲んでる」「飲んだ」と順に言わせてから、並び替えます。そして「順番に並べて。初めは？」と言って、正しい順番に並び替えさせます。それがプロントなしでできるようになったら、テスト用に残しておいた「牛乳を飲む」カード（あるいは別の人をモデルにした「お茶を飲む」カード）を取りだし、いきなりばらばらな順番に並べて、それを「順番に並べて」で、正しい

順番に並べることができるかどうか、試してみます。

ほかの「ジャンプする」「ジュースを注ぐ」などの三枚一組の時制連続カードも同じようにして教えましょう。

4枚以上の連続カード

この連続カードの中には、4枚以上が一組になったものも含まれています。例えば「10紙を切る」は紙を切っている場面が二回出てきます。

このタイプは、まずその中から三枚を取りだして、「する」「してる」「した」の時制連続カードとして教えてもいいのです。時制連続カードの並び替えが上手になってから、あとで残りのカードを足すこともできます。

あるいは三枚一組のものはすでに上手になったのなら、いきなり４枚に挑戦させてもいいでしょう。例えば「紙を切る」だったら、まず正しい順番に並べて一枚ずつ指さしながら、「（はさみで）切る」「切ってる」「切ってる」「切った」と言ってやり、まねさせます。次にカードをバラバラな順番に並び替えて、「順番に並べて」と言って、正しい順番に並び替えさせます。できなかったらプロンプトします。

これを三枚一組の時制連続カードの時と同じように、できれば類似の４，５枚一組のカードを何組かずつご家庭で作って、それらも使って練習します。目指すのはここでも、新しい一組の連続カードを、いきなりばらばらな順番で示したとき、ノーヒントで正しい順番に並び替えられるようになることです。

（２）その他の使い方

連続カードは、時間の前後を判断させる以外にもいろんな目的に使えます。

時制の練習

例えば時制連続カードは、中級の初めに時制の語尾変化（する、してる、した）を教えた後にその練習のために使うことができるでしょう。この場合は正しい順番に並べておいて、大人がカードを順番に取り上げて見せながら、「どう？」と聞き、「パン食べる」「パン食べてる」「パン食べた」と言わせていきます。最初はこちらが言ってやり、まねさせましょう。

プロンプトなしで順番に正しく言えるようになったら、今度はいきなり「食べてる」カードを出したり、「食べた」カードを出したりして、それでも正しく時制が使えるかどうかを確かめます。

出来事を順番に説明する／原因や結果を推測させる

もう一つの使い方は、一連の出来事を時系列に沿って説明したり、出来事の原因や結果を推測させるために用いることです。「松井さん連続カード」のうち、１９以降の「ストーリー編」は、（１）の時系列に並べる練習よりも、むしろこの使い方に適していると思います。この用途に用いるためには、上級プログラムの「どうなる？」「どうして？」を少なくともリアル場面で（実際に積み木を倒したりして）習得している必要があります。

「19ころぶ」を例にとりましょう。これは四枚組ですが、一枚目は二枚目との違いがそれほど明確ではないので、省いてもかまいません。一枚目を省くとしたら、まず二枚目を見せて「どう？」と聞きます。「走ってる」あるいは「女の子が走ってる」と言えたらOKです。二枚目をテーブルに置き、次に三枚目を見せて「どう？」と聞きます。答えは「ころんだ」「ころんじゃった」です。言えたら三枚目を二枚目の横（あるいは下）に置きます。ここで四枚目を見せる前に「どうなると思う？」と結果を予測させてもいいでしょう。予測できてもできなくても、四枚目を見せて、「泣いてる」あるいは「泣いちゃった」と言わせます。言えたら、四枚目を三枚目の横（あるいは下）に置きます。

理由を言わせたかったら、ここで続いて「どうして泣いてる（泣いちゃった）の？」と聞きます。「痛いから」とか「ころんだから」と言えたらOKです。「痛いから」と答えたら、それをほめたうえで、「どうして痛いの？」とさらに聞いて、「ころんだから」と答えさせてもいいでしょう。どちらも言えなかったら、プロンプトとして三枚目のカードを指さすか取り上げて見せて、「ころんだから」と言わせます。

この後、三枚のカードを並べて、もう一度端から順番に子どもに説明させていきましょう。「女の子が走ってる」「ころんだ」「泣いちゃった」などです。指示の言葉は「説明して」です。

より自然な言い方

最初はこのようなぶつ切りにしたようないい方でいいのですが、お子さんの言語能力がもっと高ければ（あるいは最初の練習から数か月ないし一年以上経って、言葉の能力が増し、自然な話し方の素地ができてきたら）、もっと自然な言い方に挑戦させましょう。

例えば三枚のカードを並べておき、「説明して」と指示を出します。子どもに「女の子が走っててー」「ころんでー」「そいで（痛いから）泣いちゃったの」などと言わせます。お子さんが相変わらずのぶつ切り口調なら、自然な言い方のモデルを言ってあげて、まねさせましょう。「それで」とか「だから」と言った接続語や「の」などの終助詞の使用がポイントです。

どうしたらいい？

連続カードは社会的なルールや道徳的な判断を教えるために用いることもできます。

例えば「23ぬいぐるみ」を見て下さい。一枚目は小さな女の子が人形を持っています。二枚目はお姉ちゃんが女の子の人形を取ろうとしています。三枚目は、お姉ちゃんが人形を取ってしまい、女の子が泣いています。ここで「お姉ちゃん、どうかなあ。いい子？悪い子？」と聞き、「悪い子」と言わせます。さらに「どうして悪いの？」と聞いて、「人形を取ったから」と言わせてもいいでしょう。

そのあとで、「お姉ちゃんはどうしたらいい？」と聞いて「人形を返す」とか「ごめんなさい、って謝る」と言わせます。言えなかったら、四枚目の写真を見せてプロンプトします。言えた場合でも「そうだね」と言って四枚目のカードを見せて、正解であることを確認させましょう。

「松井さん連続カード」ではこの手の社会的ルールを教えるカードがこれくらいしかないのですが、ご家庭で家族でいろんな場面を演じたり、絵の描ける人は絵を描いたりして、いろんな場面での道徳的判断や正しいふるまい方を教えるといいと思います。

感情と感情移入

ストーリー性の連続カードは、人の感情やその原因を考えたり、その人に感情移入（同情）することを促すために使うこともできます。

例えば「24風船飛んじゃった」では、二枚目で女の子が持っていた風船が飛んでしまいます。このカードを見せて「あっ、風船が飛んじゃった。どう？」と聞いて、「大変」とか、「女の子、かわいそう」と言わせます。続いて三枚目の女の子が泣いているカードを見せて、「女の子、どんな気持ち？」「かなしい」、「どうして悲しいのかなあ」「風船が飛んでっちゃったから」などのやり取りをしましょう。

四枚目は女の子が何かお母さんに話しかけています。「女の子、何て言ってるのかな」と聞いてみましょう。「風船が飛んでっちゃった」で正解です。

五枚目は女の子がお母さんに抱っこされて、天井に上がってしまった風船を取っています。ここは「してもらう」という表現を使って、「お母さんに抱っこしてもらって、風船を取ってる」と言えるといいですね。

最後の六枚目は女の子が風船を持ってお母さんのとなりでVサインをしています。「女の子、どんな気持ち？」と聞いて「うれしい」、「どうして？」「風船が取れたから」などとやりとりしましょう。あるいは「よかったね」と登場人物のハッピーエンドをあなたと一緒に喜び合う言葉を促してもよいでしょう。

ストーリー性の連続カードは本当に応用範囲が広いですね。今後も機会があれば、いろんなストーリー性の連続カードを作ってみなさんに提供したいと思っています。

藤坂龍司

COPYRIGHT 2008 NPO法人 つみきの会 All rights reserved.